

フィールドワーク「阪神・淡路大震災のまち・歴史まちあるき」

2017 年 1 月 22 日（日）

【行 程】

13:10 JR 神戸駅発

↓ 〈徒歩〉

13:30 ①神戸港震災メモリアルパーク（神戸市中央区波止場町）

14:00 同上発

↓

14:10 ②真光寺（神戸市兵庫区松原通）

③清盛塚（神戸市兵庫区切戸町）

④大輪田橋（神戸市兵庫区中之島）

14:40 同上発

↓

↓ 大開通経由（⑤大開駅、⑥西市民病院）

↓

14:50 ⑦御蔵北公園・御蔵南公園（神戸市長田区御蔵通 5・6 丁目）

15:20 同上発

↓

15:30 ⑧新長田南地区

（商店街、旧神戸市立二葉小学校）

17:00 同上発

↓

17:15 神戸新聞本社ビル（解散）

17:30 懇親会（神戸新聞本社ビル 18 階「和食六甲」）



① 神戸震災メモリアルパーク

神戸新聞本社ビル
神戸アンパンマンこどもミュージアム&モール

⑤ 大開駅

⑥ 西市民病院

② 真光寺

⑦ 御蔵北公園・御蔵南公園

③ 清盛塚

④ 大輪田橋

⑧ 新長田南地区

旧二葉小学校
(ふたば学舎)

人文学基礎・日本史

発表者 A 班 吉武

兵庫津について

1, 兵庫津とは

所在地：現在の兵庫県神戸市兵庫区に当たる場所にあった。



2, 兵庫津の歴史

古代 奈良時代のとある高僧によって増築された港であり、朝廷が公的に維持管理してきた。また他の港と合わせて五つの泊数えられた。そしてここにおける高僧とはあくまでも伝承であるが、聖武天皇の東大寺造営において寄与したとされる行基であるとされている。

またこの時代の港の参考として取り上げられているものに敏売浦がある。この港は天然の良港として、奈良時代においては兵庫津がそうであったように非常に栄えていた。

中世 平安時代末期になると、平清盛によって私的に修築されるようになる。一族の繁栄の基礎として利用した。

→兵庫津＝大和田泊

この時代になると前述の古代の部分で記述した敏売浦の文献における記述は大和田泊の影に隠れているためか非常に減っている。

3, 阪神淡路大震災における兵庫津

このテーマにおける直接の史料を見つけることはできなかった。しかし、前期の大学の授業である人文学導入演習におけるフィールドワークにおいて清盛塚に行った際被害があったとのことより、確実に被害はあった。

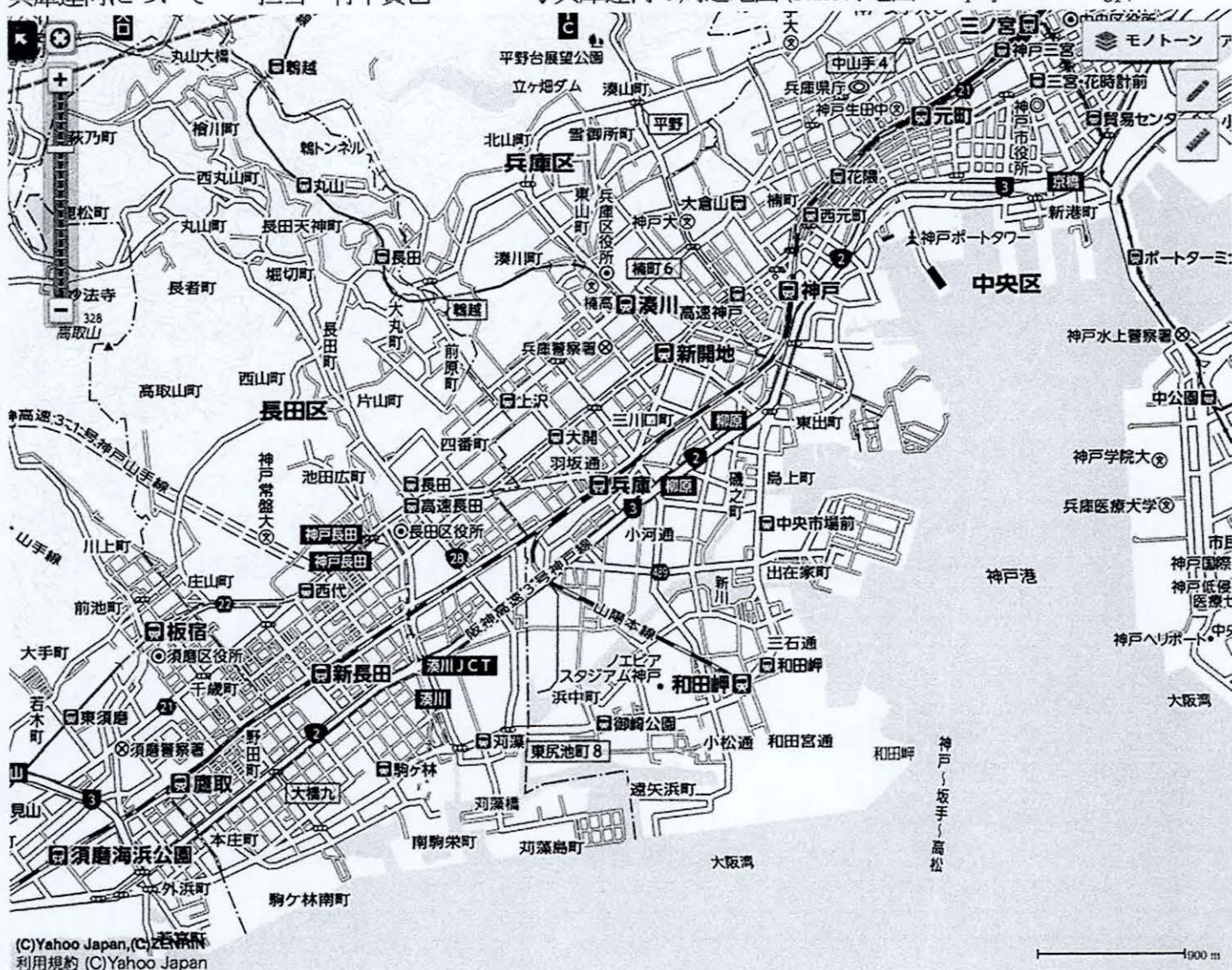
参考文献

坂江渉 「古代国家と神戸の港」

1月22日フィールドワーク

兵庫運河について 担当 竹下賢也

↓兵庫運河の周辺地図(Yahoo!地図 map.yahoo.co.jp)



江戸時代から兵庫港には適当な船の避難所がなく台風るとき遭難する船が多かったので、明治の初め、神田兵右衛門らの陳情により、兵庫県と官民共同で新川運河開削に着手する事となりました。台風るとき船が安全に避難できるような泊地をつくり、それに併せて、貿易のために荷揚げなどを設けた兵庫運河の建設が計画されました。

工事は明治7年(1874)2月に始まりましたが、難工事のため思うように進まず、翌8年5月によりやく新川運河の部分だけが完成しました。

明治26年(1893)11月、兵庫運河株式会社が創立され、土地買収をめぐる困難に見舞われながらも、明治29年(1896)から3年間、林田村の海岸から南逆瀬川を経て新川運河に合する運河を開削し、風波の高い和田岬を廻る難航路を避けて須磨・駒ヶ林方面と兵庫港を結ぶ水路をつくりました。

運河の河口に当たる場所が浅瀬であったため、これを掘った土砂で埋め立てる計画も進みました。苅藻島と名付けられた埋立地は、地元の漁業組合の反対がある中で、明治33年(1900)1月に2回目の埋め立てが終わり、兵庫運河の工事は完成しました。

裏面に続く

高松町・材木町・南逆瀬川を通過して明治8年に完成した新川運河に達する本線と、東尻池町から南に延びる支線、全長約2500メートルが兵庫運河として開通しました。

兵庫運河沿岸には製粉・製油・製糖などの工場と倉庫が立ち並び、兵庫は工業によって栄えました。

明治34年には、湊川の付け替えと、それに伴って築造された湊川隧道（トンネル）、明治38年には、湊川上流の島原川を石積みの石堤でせき止めた島原貯水池が、それぞれ完成しています。兵庫運河と合わせて、神戸における明治期の三大土木事業に数えられています。

大正8年（1919）、運河会社の経営困難を理由に、神戸市が運河を買い取り、経営を担うこととなりました。この時、運河会社により埋立地の一部は売却されず、兵庫県水産組合連合会に、無償で使用する事となりました。

昭和21年（1946）には、運河沿いの土地を工場と倉庫の立地に適するように改良する目的で、運河の拡幅と浚渫が行われ、昭和32年（1957）に工事は竣工しました。この工事によって運河水面は、原木で輸入した木材の保管場所（貯木場）としての活用も盛んになりました。木材の輸入方法が水面を利用した原木輸入からトラックのコンテナによる輸入へと変化していくと、運河の貯木水面への木材入庫も減少していき、平成17年（2005）には、運河の水面の貯木がなくなり、貯木のための施設が撤去されました。

現在の兵庫運河は、港湾機能を補完するものではなく、運河周辺に遊歩道が整備されるなど、親水空間としての利活用が進められています。

【参考文献】

「土木紀行 兵庫運河」<http://www.city.kobe.lg.jp/culture/culture/history/isan-i/unga-t.html>
(2017年1月19日閲覧)

「近代土木遺産兵庫運河」

<http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/hyogo/shoukai/img/unnga.pdf>
(2017年1月19日閲覧)

② 真光寺（神戸市兵庫区松原通 1 丁目）



真光寺境内の一遍上人廟所（1995年2月18日）



真光寺境内の無縁墓碑群（1995年2月18日）



水輪部から偶然見つけた一遍上人の骨壺（1995年3月3日）



真光寺五輪塔の復元作業。関係者の読経が流れた。（1995年3月3日）

三 真光寺の歴史について

兵庫輪田の崎島「光明福寺」にはじまり、宗祖一遍上人が念仏勧進の全国遊行の旅の途中、この地に立ち寄り 1289（正応 2）年 8 月 23 日、観音堂において臨終した。その後兵庫の信者たちによって火葬され、霊骨を五輪塔に納められ、木像を御影堂に祀り、その遺徳を崇めた。

その後、何度も兵禍や火災に遭遇し、その都度再建されたが、1945 年 3 月には第二次世界大戦の空襲により全焼してしまった。現在の本堂は 1962 年に再建されたものである。さらに 1995 年には阪神・淡路大震災で御廟所、観音堂、鐘楼が倒壊し、1998 年に再建復興された。

[参考]

www.jishu-shinkouji.jp/

真光寺の宗旨と文化財

報告者：光成直人

一 真光寺の宗旨について

真光寺は時宗を信奉するお寺です。時宗は一遍によって鎌倉時代(1274年)に開宗されました。阿弥陀如来(あみだによらい)を本尊とし、教義は、大慈悲の阿弥陀仏に帰命する只今のお念仏が一番大事なことでしてしています。家業につとめ、はげみ、むつみあつて只今の一瞬が充たされるなら、人の世は正しく生かされて明るさを増す。そして皆健やかに長寿を保てるとされており、浄土への道はそこに開かれると考えられています。

二 文化財について



真光寺に収められている寺宝絵巻、『遊行縁起(ゆぎょうえんぎ)』(全十巻)は国の重要文化財に指定されています。本絵巻は全10巻のうち、前半4巻は時宗宗祖である一遍上人伝、後半の6巻は二祖の他阿上人の伝記で構成されています。成立は1303~1307年の間とされており、編者は宗俊といわれています。



五輪塔のある玉垣内は文化財として県史跡に指定されています。阪神・淡路大震災により倒壊し、1998年5月に復興しました。

③ 清盛塚 (神戸市兵庫区切戸町)



震災による清盛塚の被災状況。左は倒壊した石造十三重塔。(1995年2月18)



撮影：大木本美通氏／提供：神戸大学附属図書館震災文庫

清盛塚は兵庫県神戸市兵庫区切戸町に所在する高さ約 8.5 メートルの十三重石塔の名称であり、古くから平清盛の墓と伝えられてきた。また、石塔の隣には 1968 年に建てられた平清盛像とその甥で琵琶の名手だった平経正にちなんだ琵琶塚碑が並ぶ。平清盛は 1181 年 3 月 20 日京都九条河原口にあった平盛国の屋敷で熱病を悪化させ、死去したとされている。その際、「葬儀などは無用。頼朝の首を我が墓前に供えよ。」という言葉と共に、福原に埋葬するよう遺言を残したという話がある。この話をもとに、長らく清盛の墓と考えられていたのがこの石塔である。また、鎌倉幕府執権北条貞時が供養のため建立したという伝承が江戸時代前期より流布していた。この十三重石塔には弘安 9 年（1286 年）2 月の年号が刻まれている。西大寺の叡尊が弘安 8 年（1285 年）8 月 14 日に兵庫で石塔供養に臨んだという記録が残されており、近年、この石塔が清盛塚と呼ばれる十三重石塔ではないかと考えられている。しかし、大正 12 年神戸市電松原線の道路拡張工事に伴い移転させられることになった際、調査が行われ、遺骨が発見されなかったことから、墓ではなく供養塔であると現在は考えられている。神戸の清盛塚以外にも京都市東山区松原の六波羅蜜寺、同じく右京区の祇王寺、さらに山口県下関市彦島にも清盛塚が存在している。また、清盛の遺骨に関して、『平家物語』では火葬の後、側近の円実法眼により、大輪田泊改修時に築いた経ヶ島に納められたと書かれ、『吾妻鏡』では遺言により、遺骨は現神戸市垂水区の播磨国山田の法華堂に納められたと書かれている。

参考URL

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/institution/institution/library/furusato/haka.html>

<http://平清盛ゆかりの地.com/fukuhara/kiyomoriduka.html>

④ 大輪田橋（神戸市兵庫区中之島町2丁目）



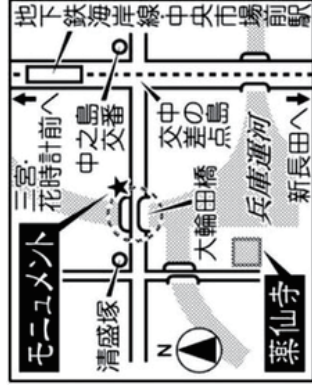
震災で崩壊した大輪田橋の飾り柱（1995年2月18日）

撮影：大木本美通氏

提供：神戸大学附属図書館震災文庫

神戸新聞（2004年8月12日付）抜粋

碑は語る震災10年（2）飾り柱 大輪田橋と薬仙寺／2度の災禍 身に刻む



架設は一九二四（大正十三）年。欄干の四隅にあった飾り柱は、激震ですべて崩れ落ちた。水に沈んだのはその一つ。別の一つは修復され、橋の北東にモニュメントとしてよみがえった。

実は、飾り柱はかれきとして処分されそうになった。だが、愛着を持つ住民らの要望で近くの薬仙寺が保存し、難を逃れた。また、破片を集め、別のモニュメントも境内につくられた。

橋の近くで生まれ育った竹内公富さん（66）は「運河のシンボル。ただの橋ではない」と言う。一九四五年三月十七日の神戸大空襲。水を求めた多くの人々が橋上で命を落とした。欄干には焦げた跡が残る。橋は、空襲の「生き証人」でもある。

毎年三月、神戸空襲を記録する会が、慰霊碑がある同寺で開く慰霊祭。三十三回目の今年、初めて参加する年配の男性の姿があった。理由を尋ねると、こう答えたという。「空襲のことは忘れようとしてきた。でも残る人生がわずかになり、区切りをつけたくなくなった」。男性は家族を亡くした大輪田橋の近くで祈りの場を探した。そして慰霊碑と、そこで開かれる慰霊祭に行きついた。

モニュメントには、犠牲者の名が刻まれているわけでも、花が供えられているわけでもない。それでも訪れる人はいる。声高には主張しないが、二つの災禍の記憶を刻み続ける橋。震災十年。それは、戦後六十年の節目でもある。

大輪田橋の星座とカタツムリ

復興した親柱には、1月（震災）と3月（戦災）の星座をかたどった照明装置がほどこされ、モニュメントとして再生されました。また、橋には青銅製の“かたつむり”が這っています。カタツムリはきれいな空気と水のある場所にしか生息しないことから、その願いを込めて取り付けられました。（『兵庫区制80周年記念誌』兵庫区役所まちづくり推進部総務課、2013年、P12）

平成 28 年度金曜 2 限 人文学基礎・日本史学

1 月 22 日フィールドワーク「阪神・淡路大震災のまち・歴史まちあるき」

大輪田橋について

報告 西崎亮太

大正 13 年 6 月 大輪田橋竣工

昭和 20 年 2 月 4 日 神戸に最初の空襲

3 月 17 日 夜間大空襲

「この夜は北風が強く、この風が火勢をあおったため、各所に飛火して大火災となり、ついに本市の西半分を焼きつくした。北風にあおられて火が路面を走り、風下に避難する人々の群れに追い迫っているさまは、さながら地獄の業火を思わしめるものがあった。湊川神社西側の溝には炎を避けて焼け死んだ多くの死体があり、兵庫区清盛塚近くの大輪田橋付近では、風下に逃れんとして避難した多くの人々が運河に行く手を阻（はば）まれ、迫りくる炎に追われて運河の貯木筏の上に飛び降りて逃れようとしたが、対岸は飛び火ですでに燃えているため、腹背に火をうけて多くの人々が運河の中で生命を断った。（後略）」（神戸市史）
（『神戸大空襲』 p36 より）

平成 7 年 1 月 17 日 阪神・淡路大震災

震災の影響で親柱が落下

→橋の東部に、「大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント」の板がはめこまれて置かれている。

参考 <http://hardcandy.exblog.jp/9338394/>

『神戸大空襲』神戸大空襲を記録する会編 昭和 47 年 のじぎく文庫

神戸市内の被害状況（昭和20年2月6日～8月6日）「神戸戦災復興誌」より

	灘	葦合	神戸	湊東	湊	兵庫	林田	須磨	合計
死者	808	1,134	58	433	122	1,250	53	912	6,235
重傷	459	238	39	3	84	4,227	419	1,105	7,007
軽傷	611	1,067	81	7		2,342	898	2,025	8,336
全焼家屋	18,068	22,441	2,649	9,861	3,695	24,235	13,996	13,639	123,578
罹災者	74,102	81,360	8,911	35,304	13,076	98,294	49,635	62,427	470,820

※各区の被害数は身元が確認されたもの、届け出のあったものだけで合計とは合わない。

出典 『神戸大空襲』

⑤ 大開通・神戸高速線大開駅（神戸市兵庫区水木通7丁目）



大開通の道路陥没（大開駅の直上）。長田方面（写真上部）で火災の煙が上がっている。（1995年1月17日）

撮影：大木本美通氏／提供：神戸大学附属図書館震災文庫



被災した大開駅のプラットフォーム

『神戸高速鉄道東西線大開駅災害復旧の記録』
（佐藤工業株式会社、1997年、4-1-68頁より）

駅延長120mにわたって設置されている中間柱35本のうち、31本が完全に破壊され、天井板が崩壊してM字型に折れ曲がり、直上の大開通も大きく陥没した。

⑥ 神戸市立西市民病院（神戸市長田区一番町2）

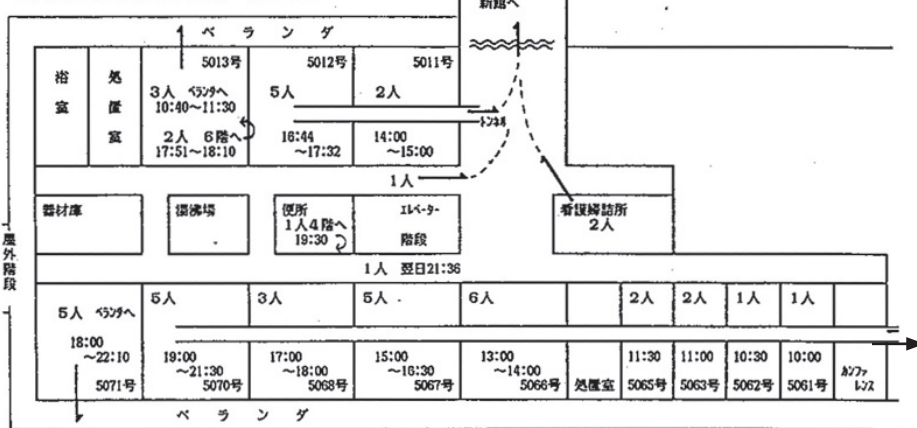


本館5階部分が圧壊した西市民病院（1995年1月19日）

提供：神戸市（阪神・淡路大震災「1.17の記録」<http://kobe117shinsai.jp/>）

1月17日発災時点の院内滞在者280名（患者245名、職員35名）のうち、本館5階の47名（患者44名、看護婦3名）が閉じ込められる状態となった。職員や消防隊によって46名が救出されたが、患者1名が亡くなった。

5西病棟平面図と救出患者の推定時刻



時間は救出できた時刻

（時計を見る余裕がなく推定を含む）

『西市民病院月報 vol.278 阪神大震災特集』（神戸市立西市民病院、1995年）より